

新年のご挨拶

新春を迎え、読者の皆様におかれましては益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。平素のご厚情に深謝し、本年も皆様お一人お一人にご満足いただける『モダンメディア』づくりに努めて参りたいと存じます。

弊社は、ヘルスケア(「臨床検査事業」、「食品・環境検査事業」)を通じて、人々の健康を守ることを経営理念とし、より高品質の製品および情報を提供しつつ、人々の健康に貢献したいと考えております。特に、健診・検診分野や感染症分野等の製品開発、販売に注力し、「品質で信頼され、技術で発展する“EIKEN”」をモットーに、その事業活動を推進しております。

その主力製品の1つとしまして、大腸がんのスクリーニング検査(一次検査)に使用される便潜血検査用試薬(OC-ヘモディア)および測定装置(OC-センサー)を国内はもちろんのこと多くの諸外国に販売しております。昨年の発売30周年を機に、今後、さらに海外展開を強化していく所存です。

また、弊社は「NPO法人ブレイブサークル運営委員会」が行っている大腸がんに対する理解促進と検診の輪を広げていく活動の趣旨に賛同し、2007年よりサポートしております。昨年も「Tokyo健康ウォーク2017」をはじめ全国で展示イベント等に協賛し、ご参加の皆様にご大腸がん検診の早期発見・早期治療の大切さについて理解を深めていただきました。

本誌では昨年、編集委員会からの新たな企画として「感染対策と微生物検査」および「わだいのコーナー」が立ち上がりました。「感染対策と微生物検査」では、感染対策における微生物検査の役割と課題等を取り上げることとし、また「わだいのコーナー」では、特定のジャンルに捉われず、誰もが話題にしたいような読み物をご提供したいとの思いでスタートしました。どちらもご好評をいただいております。これまでのコーナーともども、引き続きご愛読いただければ幸甚です。

さて本号では、新たに北川泰久先生の表紙シリーズが始まりました。また、恒例の新春放談では「ゲノム医療時代を迎えて」をテーマに、ゲノム医療の実用化が進められ、保険適用が目前に迫るなか、その有用性と遺伝子検査の品質・精度における課題まで、長時間にわたりご討論いただきました。やがて来る新時代の道標として、じっくりとお読みいただきたいと思います。

また、通巻750号の記念すべき節目を迎える本年5月号には、沢山の先生にご協力いただき、座談会「感染症診断の未来を科学する」ならびに、特集記事「感染症の診療・検査・研究を担う次世代へのメッセージ」の掲載を予定しております。医療に携わるそれぞれのお立場から読者の皆様に、また後進へと伝えていきたいメッセージが詰まった『モダンメディア』記念号の発行を楽しみにお待ちしております。

本年もより一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願いするとともに、皆様方にとってよりよい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

平成30年元旦



栄研化学株式会社

代表執行役社長

和田 守 史